

ニッスイグループにおけるSDGsの取り組み

日本水産株式会社 CSR部

ニッスイグループの原点



創業の理念

水の水道におけるは、 水産物の生産配給における理想である (1911年創業)







経営方針



経営の基本方針

私たちは、水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、 水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、 世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。

創業の理念

経営の基本方針

CSR行動宣言

日本水産(株)について(社史)



創業の理念

水の水道におけるは、

水産物の生産配給における理想である。



田村 市郎

社名を日本水産株式会社に改称

日産コンチェルンに参画し、本社を日産館に移転

水産統制令により日本海洋漁業統制株式会社

を設立、冷蔵・冷凍・加工・販売配門を帝国水産

統制 (現在のニチレイ) に解測

太平洋戦争で在外資産、船舶など

トラック島資産で沈没した第三国南丸

1943.3

1945.8

深刻な被害を被った



1952.10

たぐるを使用した

1959.4

1967.2

1970.10

洋上すりみの本格生産開始

段射式底引き網票等に初出面[1970.2]

体質改善5か年計画に潜手

海上・健上の生産能力を拡大、身成長を送げた

ツナソーセージの本格生産を開始

功労者 国司 浩助



1988.12

1989.9

1994.1

1980

提携、EPA効果到定 の実施技師に養手

干票大学医学部と



子UESA、社を設立、協能の管理を開始

家庭用冷凍食品焼きおにぎり発売

COOK FOR MERCHASCHU

大分海洋研究センター竣工

100 -110 E 100 100

養殖制造の研究開発経点として大分類体的市に設置



シーロード・グループ社

ゴートンズ社を買収

に資本参加

ニュージーウンド最大の木倉企器シーロード社に 管木幸加、ニッスイグロードのリンクスの形成の足裂かりとなった

宮崎県中間市に設立、国内ぶり黄州・加工事業に参入

2011.4

2001.1





2001.6

1911.5

国司港助、田村市部

の命により英国で

トロール化液丸を構造 し日本まで回航

1919.9

田村汽船漁業船から

1920.2 田間初の水産研究機関・早期(はやとも)



1928.11



アルゼンテン沖で練賞中の最新版のトロールを必須丸。 無容電信収置・ディーゼルエングン・ 知内身理法理基督を結婚

1929.12





さけ・ます資業に出資





当時世界最大の前屋でトロール和大和七が建工

1997.10 コーポレートプランドマーク減一 ONISSUI 本幕別に分散していたブランドマークをひとつに終っ

1983.1

千葉大学医学部、エイコサ

ベンタエン酸(EPA)を いわし限から抽出成功

1990年代



1960年代

初の漁業白書発表

1964.4 OECDIE加盟 (開位経済体制へ) 1964.10 果海道新幹線開棄 第18回オリンピック 1969.12

2位となる

1970.3 大阪で日本万国博覧会開催 1971.8 円が変数相場制に移行 1973.10 第一次石油ショックおこる アメリカ200海里法施行 ソ連200海里漁業専管

1990.10 東西ドイツが統一する 1991.10 再生資源の利用促進に 関する法律(リサイクル法)

海洋法に関する国際混合 1995.4

2004.12 医隆牛肉に履摩表示制度開始 2005.4 個人情報保護法施行 2006.5 食品衛生法に基づく機能要素 のボジティブリスト側を指行

小阪屋原査機[はやぶさ]が 宇宙7年の終から帰還 東日本大震災発生(M9.0)、 世界教測史上4番目の規模 和食がユネスコ無形文化遺産に登録 2016.4

解本地要発生(M7.3)

MVIP2017 ファインケミカル事業 事業境目領域での 融合・連携を強化 研究·開発 品質保証・CSR

2015年からの中期経営計画に おいてCSR経営を掲げる





2015年9月の国連サミットで「持 続可能な開発のための2030ア ジェンダ」が採択

MVIP+2020



1900年代

創業当時の田村大戦連集課 観音線専政所

1911.5

没業昭を創業

田村市部、下層で田村汽船

日露数争降数 1905.9 社会の状況 1908.10

日露房和杂的搭起 日露沒寒協定調印 1914.7 第一次世界大批開戰

1904.2

1920.1 国際連盟発足 1923.3 1923.9 関東大震災おこる 1929.10 世界大恐慌始まる 1935.2 東京中央卸売市場開場 1936.2

1930年代

2.26事件おこる 1938.4 国家期间吴法公布

1941.12 太平洋数争翻数 1942.5 水层研制合公布 1945.8 太平洋野条総わる

1945.9 マッカーサーライン 1946.2 新旧円交換開始 1947.5 日本国際法施行 1948.7

水產庁開庁

1950.6 1951.9 サンフランシスコで 日米安全保護条約額日 1952.4 マッカーサーライン撤廃 1953.6 日米加濃葉条約発効 1954.3 ピキー海場で始末した

第五捆尼丸澤港

シナッネーブで第一次 国建海洋法会费阿德

1988.1 未開設定 アメリカ、88年当初の 対日漢漢制当量を ゼロとすることを適告 日本のGNPが、アメリカに 次いで資本主義国で 消費税法包施行(税率3%)

1984.1 日米展産物交渉実施、 牛肉・オレンジなど市場開放 1986.4 向品集界VAN理営会社、 株式会社ファイネット設立 表示を養務づけ 1998 4 ニュージーランド、お口割当 34%減を決定。事実上、揮集不務

食品新生法改正、食品の 尼斯保証期限·消費期限 改正外国為西法施行、日本版ビッグパン (金融大改革)が始創 1999.1 EU.単一両留ユーロか

ニッスイグループについて (海外事業)



経営の基本方針



Nissui's Business Model



白身魚(ベーリング海スケソウダラ)



米国の漁業者が漁獲 したスケソウダラを グループ企業のユニ シー社が集荷

■ダッチハーバー港に停泊する



パー工場ですり身や フィレーに加工、日本 および世界のグルー プ各社や市場に出荷

◆ユニシー社ダッチハーパー工場



すり身は各国でカニ風 味かまぼこや練り製品

ニッスイグループについて(国内事業)





養殖

テリでトラウトの養殖を行っています。日本では宮崎県でプリ 鳥取県でギンザケなど、鹿児島県・長崎県などで本マグロの養 殖、養殖魚用配合飼料の生産・販売などを行っています。







金子產業









加工·販売

北米ではスケソウダラなどの白身魚の加工や、これらを使用 した水産冷凍食品などの製造・販売、ヨーロッパでは水産物 の調達と販売を行っています。日本では鮮魚・冷凍魚の販売 のほか、水産物を高度加工した食材を製造・販売しています。



ミンチ状に凍結加工した商品

スケソウダラを開催しやすい ユニシー社

U.UnlSea









を行っています。





エムデベス社(チリ) シーロード社

漁業

南米やニュージーランドなどを拠点とする漁業により、

水産資源にアクセスしています。日本では沖合底曳漁



の開拓

健 康 新たな市場

おいしさ



食品事業の活動

冷凍食品やチルド食品などの食品事業で は、国内外の市場において、消費をめぐるさ まざまな変化に対応した新商品を開発し、 新たな市場の創造に努めています。

簡単·便利

国内















常温食品

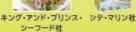
海外

食品事業



















ファインケミカル事業 (医薬・健康食品)



北海道ファインケミカル(株) 海外から間違した魚油は、 国内に設けた備蓄施設に 一時的に保管されます。





つくば工場

ファインケミカル総合工場







原料のイワシ油は ベルーなどから









CSR方針の検討ステップ(経営へのCSRの導入)





国内外グループ会社を 含めた実態調査

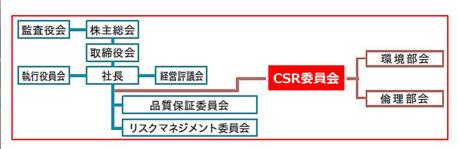
6問 1. コンプライアンス・ガバナンス 2. 人権、労働条件・労働環境 10問 3. 環境 6問 4. お客様からの信頼、食の安全・安心 4問 5. 地域社会への貢献 3問

STEP 3

方針案についての ステークホルダーダイアログ



CSR委員会の設置



CSR選任組織の設置

▶グループ各社取り組みアンケート結果(抜粋)

pulse have been paid

▶サプライヤー従業員の人権尊重を定期的にチェック 海外64%、国内11%

▶多様性の尊重のための目標設定と取り組みの実施

海外45%、国内 0%

>海洋資源の持続可能性に向けた目標設定と取り組み 海外36%、国内11%

▶事業の特性を活かした地域社会への貢献活動

海外73%、国内33%

(国内 27社、海外 11社 計 38社)

2015年12月

2016年 1月

2016年 2月

CSR行動宣言の発表

マテリアリティ(重要課題) 検討開始

2016年 3月

2016年 4月

役員CSR勉強会 I

STEP

社員選抜メンバーによる ワークショップ

STEP

CSR方針について 執行役員会で審議

課長CSR勉強会 & 意見交換会

役員CSR勉強会Ⅱ

部長CSR勉強会

CSR行動宣言(CSR方針)



私たちニッスイグループは、地球や海に感謝し、創業時より受け継ぐ5つの遺伝子(使命感、イノベーション、現場主義、グローバル、お客様を大切にする)から多様な価値を創造し、事業を通じて社会の課題解決に取り組みます

お客様

- 私たちは、安全・安心で、お客様にとって価値ある品質の商品をお届けします
- 私たちは、海の恵みを活かし、イノベーションにより、食の美味しさや楽しさと健やかな生活をお届けします

従業員

- 私たちは、高い倫理観を持ち、社会規範に則って行動し、より信頼される企業を目指します
- 私たちは、多様な価値観や個性を尊重し、互いを磨き合う中でチームワークの発揮により成長し続けます。

ビジネス・パートナー

- 私たちは、ビジネス・パートナーとの公正で公平な関係を維持します
- 私たちは、ビジネス・パートナーと相互の信頼関係を築き、共に持続可能な社会を目指します

環境

- 私たちは、環境負荷の低減および自然環境と生物多様性の保全に努めます
- 私たちは、地球や海の恵みを受けて事業を営んでいることを心にとめ、資源の持続的な利用に努めます

株主

- 私たちは、株主への情報開示に努め、健全で透明な経営を行います
- 私たちは、安定的に成長し続けることで企業価値を高め株主への適正な還元を行います

社会

- 私たちは、ニッスイグループの知見や技術を通じ、地域社会の発展と次の世代の育成に努めます
- 私たちは、世界各地の文化や習慣を尊重し、事業の発展とともに地域社会に貢献します